

行事予定表	
1	水
2	木
3	金 憲法記念日
4	土 みどりの日
5	日 こどもの日
6	月 振替休日
7	火 給食振替日(3歳児以上)
8	水 交通安全教室(13:30)/生活写真撮影(3・4・5歳児)
9	木
10	金
11	土
12	日
13	月 体操
14	火 ピヨピヨ/生活写真撮影(0・1・2歳児)
15	水 だいちぐみ保育参観/おべんとうデー
16	木 カレーの日
17	金 ほしぐみ保育参観
18	土
19	日
20	月 体操
21	火 ひかりぐみ保育参観/巡回相談
22	水 保護者会役員会
23	木 にじぐみ保育参観
24	金 避難訓練
25	土
26	日
27	月 体操
28	火
29	水
30	木 誕生会
31	金

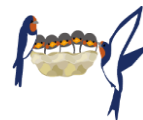


桜の開花予報がはすれ  
お花見終業式がお花見始業式になった  
天候不順に一番が分からず  
桜も、さぞ困ったことだろう  
桜がアツという間に散り  
つつじが待ちきれず、一気に咲いた  
木々に若葉が茂り、小鳥がさえずる  
爽やかな風に、  
鯉のぼりが青空を泳いでいる  
進級児は、すっかりペースをつかみ  
縦横に遊び込んでいる  
新入児も落ち着いてきて、遊び始めた  
ふたばは子どもの楽園  
5月はふたばっ子の季節

「ツバメの巣作り」  
今年も、2階のテラスにツバメがやってきた。子どもを授かるために2匹で一生懸命働きをしているのを見ると、「頑張れ！」と応援したくなります。そのうち「ピーピー」と可愛鳴き声が聞こえてくるはず。皆でツバメの巣立ちまでを見守りたいと考えています。

**今月の予定の中から...**

- 交通安全教室(8日)  
交通安全教室では、道路を渡る際の「みぎ・ひだり・みぎ」を目で見て確認してから渡ることを教わっています。ご家庭でもお子さんと手を繋いで左右確認をしましょうね。
- 生活写真(8日・14日)  
園生活の様子(自由あそび・食事の様子など)を写真屋さんが撮影します。  
・8日: だいち、たいよう、そら  
・14日: にじ、ひかり、ほし
- 保育参観  
5/15(水)だいちぐみ 5/17(金)ほしぐみ  
5/21(火)ひかりぐみ 5/23(木)にじぐみ  
\*詳細は、後日お知らせ致しますが、保護者2名までの参観が可能です。



- おべんとうデー(15日)  
子ども達の大好きなおべんとう! お弁当のおかずも、自分で食べられるようなもの大きさや形態の物をお願いします。中味をよく冷まして、保冷剤も必ず入れて下さい。
- カレーの日(16日)  
・たいようぐみ・そらぐみのお子さんは、エプロンと三角巾の用意をお願いします。4歳児は待ちに待った「野菜切りデビュー」です。5歳児は、野菜切りと釜戸係を行います。だいちぐみは、自分のフルーチェを作り、ほしぐみは、野菜洗いを担います。※5歳児(ぞうぐりプ)の保護者の方は年に1回カレーの日の見学が可能です。希望の方はお知らせください。
- 巡回相談(21日)  
・年5回園外の相談員の方に、子ども達の様子を見て頂いたり、相談したりします。保護者の方には、後日お知らせを配布します。
- 誕生会(30日)  
・誕生会では、5歳児がスカーフを首に巻き、初めの言葉と3・4・5歳児の誕生児を席までエスコートします。1年1回誕生児にとって大切な日を全園児でお祝いします。

★お知らせ  
・非常勤の岡田里咲先生が、31日から産休に入ります。育休取得後に復帰予定です。

「ほめて育てる子育て」

「ほめなご子育て」

難しい時代になった。ちよつと注意、叱責しただけで心が折れてしまう若者が多くなった。折れるうちはまだいい。大したことでないのに、自殺してしまうことだってあるという。若い人に何かいうのに、先輩・上司はビクビクしているのではないかと決してよいことではないが、私の育った時代は、ゲンコツ・ピンタは当たり前だった。だいたい〇〇ハラなんて言葉はなかった

くはない」と考えているという。「ほめる時は、人前の方が効果的」と、何かで読んで実践してきたのに、どうして? 人前で誉められたくないのは、自己肯定感の低さであり、褒めるだけでは自己肯定感の育たないという。▼現代は、子どものギャング集団が、大人の干渉から逃れ、地域を自由に走り回って遊び、ぶつかり合い、協力し合い、沢山の体験を通して自分を作る環境になっている。親も教師も神経質に関わるようになっていく。いつも他人と比較され、評価されていると、子どもは親の顔色を見ながら、ほめられるように行動するようになり、自主性・自信を失い、依存的になる。いわゆる大人に都合のよい「良い子」になってしまう。▼昔、「誰かと自分を比較しなかった時に、自分が好きになりました」というコマーシャルがTVで流れていた。子どもは大人の視線を感じて、自分が誰かと比較されていると感じている。自己肯定感、他人との比較、大人の評価の中では育たない。顔を真っ赤にして、逆上がりやチャレンジしている子に、余計な口出しをすると、スーと引いて去ってしまうことがある。ある時、パツとできると、頼みもしないのに、「見せてあげる」と鼻を高く、誇らし気にやってみせる。「すごい!」「やればできるんだ」と共感すると、自尊心、肯定感を高める。自主的・主体的に自由に、夢中になって、辛く苦しい状況を乗り越え、「できた」「やった!」と、思う時、自己肯定感を高める。大人は、そういう時に、「共感」するだけで良い。またあまり叱り過ぎると、鬱屈してしまう。危険なこと、弱い者いじめなど、ルールに反しない限り、余計な口出しはせず、チャレンジ、試行錯誤する環境に、置いてあげるだけで良い。

理事長 浅田 精利

